

# MITSUBISHI

## 三菱電機エアコン別売部品

### 加湿器(PAC-KD10・16・18・19CH) 取付説明書

適用機種 : PAC-KD10CH (PDFY-J22・28・36M-A)

PAC-KD16CH (PDFY-J45・56M-A, PDH-J40, 50, 56FA)

PAC-KD18CH (PDFY-J71・80・90M-A, PDH-J63,71, 80, 90FA)

PAC-KD19CH (PDFY-J112・140M-A, PDH-J112, 140FA, PDHB-4,5FA)

WT01956X03

**△ 注意** 適用機種を必ず確認し、誤使用のないようにお願いします。

## 安全のために必ず守ること

- ご使用の前に、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ据付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

### △ 警告

誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。

### △ 注意

誤った取扱いをしたときに、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- ・お読みになったあとは、取扱説明書とともに、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- ・お使いになる方は、取扱説明書とともに、いつでも見られる所に大切に保管し、移設・修理の時は、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しください。

### △ 警告

取付けは、販売店又は専門業者に依頼してください。

- ご自分で取付け工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。

- 接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災等の原因になります。

空気清浄機、加湿器、暖房用電気ヒータ等の別売品は必ず、当社規定の製品を使用してください。

- また、取付けは専門の業者に依頼してください。ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

取付工事は、この取付説明書に従って確実に行ってください。

- 取付けに不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。

- 電気回路容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。

改修は絶対にしないでください。また、修理は、お買上げの販売店にご相談ください。

- 修理に不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

## 据付けをする前に

### ⚠ 注意

食品・動植物・精密機器・美術品の保存等特殊用途には使用しないでください。

- 食品の品質低下等の原因になります。

病院、通信事業所などに据付される場合は、ノイズに対する備えを十分に行って施工してください。

- インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤動作や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音などの弊害の原因になります。

特殊環境には、使用しないでください。

- 油・蒸気・硫化ガスなどの多い場所で使用しますと性能を著しく低下させたり、部品が破損することがあります。

濡れて困るもの上にユニットを据付けないでください。

- 湿度が80%を越える場合やドレン出口が詰まっている場合は、室内ユニットからも露が落ちる場合もあります。また、暖房時には室外ユニットよりドレンが垂れますので必要に応じ室外ユニットも集中排水工事をしてください。

## 据付け（移設）・電気工事をする前に

### ⚠ 注意

電気配線は、張力がかからないように配線工事をしてください。

- 断線したり、発熱・火災の原因になります。

梱包材の処理は確実に行ってください。

- 梱包材には「クギ」等の金属あるいは、木片等を使用しているので放置状態にしますと「さし傷」等の原因になります。

製品の運搬には、十分注意してください。

- 20kg以上の製品の運搬は、1人でしないでください。
- 製品によってはPPバンドによる梱包を行っていますが、危険ですので運搬の手段に使用しないでください。
- 熱交換器フィン表面で切傷する場合がありますので、素手で触れないように注意してください。
- 包装用のポリフクロで子供が遊ばないように、破いてから破棄してください。窒息事故等の原因になります。

## 試運転をする前に

### ⚠ 注意

濡れた手でスイッチを操作しないでください。

- 感電の原因になります。

エアフィルタをはずしたまま運転しないでください。

- 内部にゴミが詰まり、故障の原因になります。

パネルやガードをはずしたまま運転しないでください。

- 機器や回転物、高温部、高電圧に触れると巻き込まれたり、火傷や感電の原因になります。

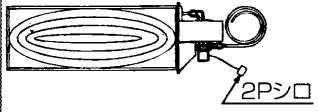
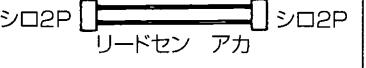
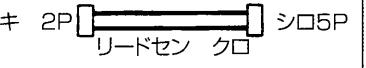
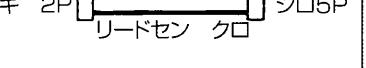
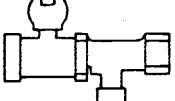
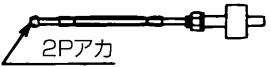
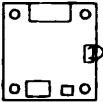
運転停止後、すぐに電源を切らないでください。

- 必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。



# 付属部品

本別売部品には、この取付説明書以外に、下記の部品が入っていますのでご確認ください。

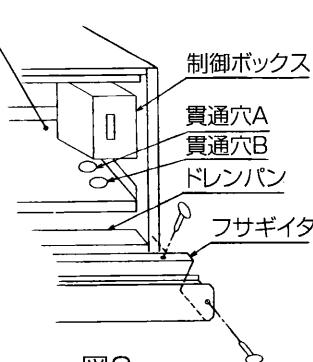
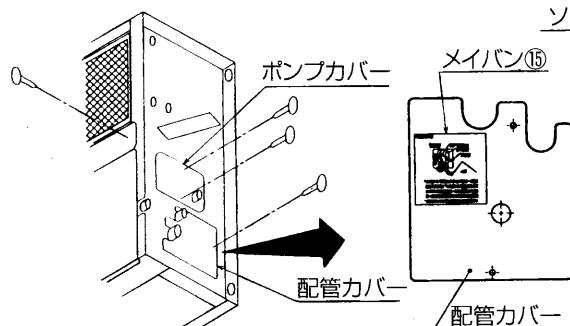
品名	外形図	数量				品名	外形図	数量			
		PAC-KD-10CH	PAC-KD-16CH	PAC-KD-18CH	PAC-KD-19CH			PAC-KD-10CH	PAC-KD-16CH	PAC-KD-18CH	PAC-KD-19CH
加湿エレメント	 ① J22 ~ 56用 ② J63 ~ 90用 ③ J112 ~ 140用	1	1			⑨		1	1	1	1
				1		⑩		1	1	1	1
					1	⑯			1	1	1
④バルブ組立		1	1	1	1	⑪		2			
⑤パンタタイ		3	3	3	3	⑫			2		
⑥ゴムキャップ		1	1	1	1	⑬				2	
⑦プロトースイッチ		1	1	1	1	⑭					2
⑧加湿制御基板		1	1	1	1	⑮		1	1	1	1

# 加湿器取付要領

加湿器の取付は、室内ユニット本体据付前に実施してください。

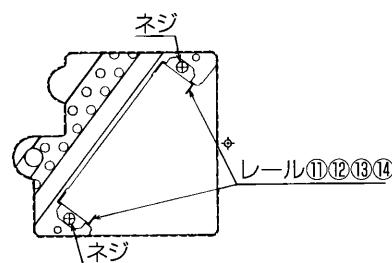
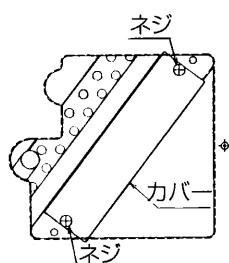
## 1 取付の準備

1. 室内ユニット本体のフィルタを取り外してください。
2. 図1のようにポンプカバー（ネジ2箇所）、配管カバー（ネジ1箇所）を取り外してポンプカバーにメイバン⑯を貼付けてください。
3. 図2のようにフサギイタ（J22～36用：ネジ4箇所、J40～140形：ネジ5箇所）を取外してください。



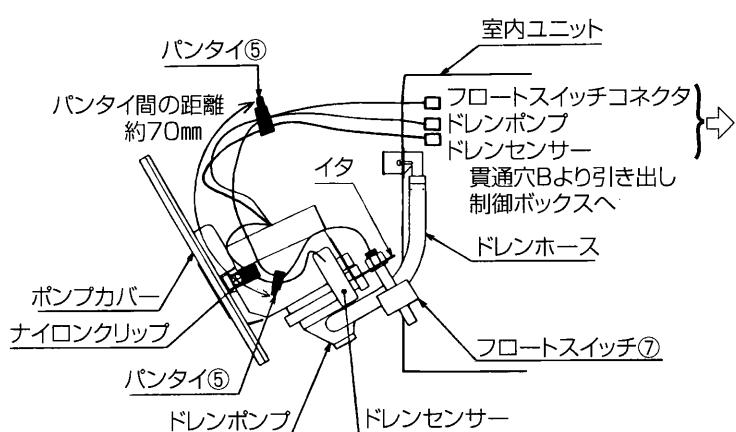
## 2 レールの取付

1. 配管カバーを外すと、その奥に板金製のカバーがあります。そのカバーを取り外してください。（図3）  
(加湿器使用時、取外したカバーは使用しません。)
2. カバーを取り付けたままのネジを流用してレール⑪⑫⑬⑭を図4の位置に取付けてください。レール奥側（ネジ止めの反対側）は熱交換器プレートの切欠き部へ確実に挿入してください。



## 3 フロートスイッチの取付

1. 取外したポンプカバーに付いているイタ（ドレンセンサが固定されています。）にフロートスイッチ⑦を取り付けてください。（図5）
2. フロートスイッチからのリード線は、図5に示す2箇所の位置でパンタイ⑤を用いて2箇所を固定してください。
3. フロートスイッチからのリード線を室内ユニット内側に通し、図2の貫通穴Bより引きだしてください。
4. 取付け後、フロートスイッチ⑦が軽く動くことを確認してください。



## 4 加湿エレメントの取付

- 配管カバー一切込み部の穴を開けてください。
  - 付属のゴムキャップ⑥にプラスドライバー等で穴を開け、図6のように加湿エレメントからのチューブを通してください。  
(ゴムキャップの取付方向は図7を参照してください。)
  - 加湿エレメント①②③を室内ユニットに取付けられたレールに沿って納めてください。  
(加湿エレメント自体はネジ固定しません。)
  - 電磁弁のリード線を図8詳細図に示すように通し、パンタイ⑤を用い図示位置にて必ず固定してください。
  - 電磁弁のリード線を送風機台の貫通穴Aより引き出してください。(図9)  
制御ボックス外付けの場合は図10のように電源用貫通穴に通してください。
  - ①で取外したポンプカバーと配管カバーを元に戻してください。
- 注) ・配管カバー取付時チューブが折れていないことを必ず確認してください。
- 注) ・電磁弁のリード線にたるみが生じるとフロートスイッチやドレンポンプに引っ掛かって作動不良となり、水漏れの原因となりますので組込み時の確認を十分に行ってください。

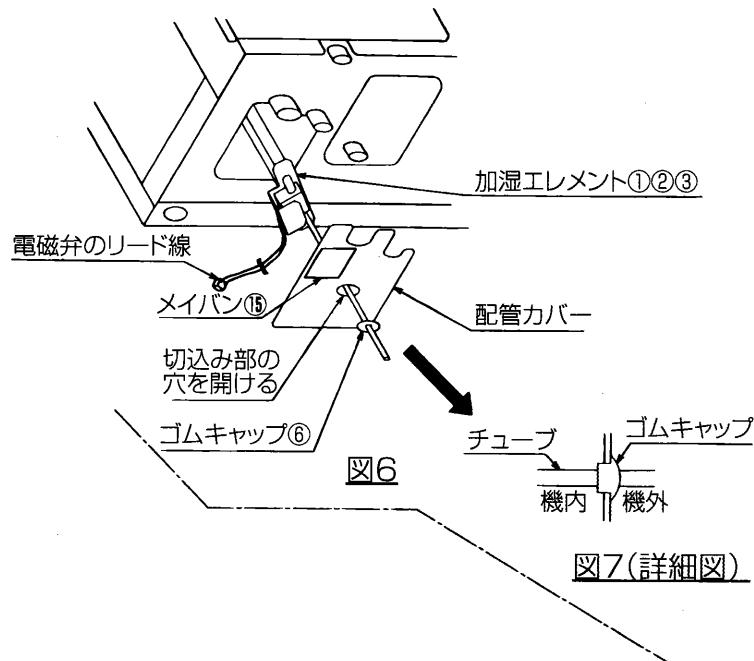


図7(詳細図)

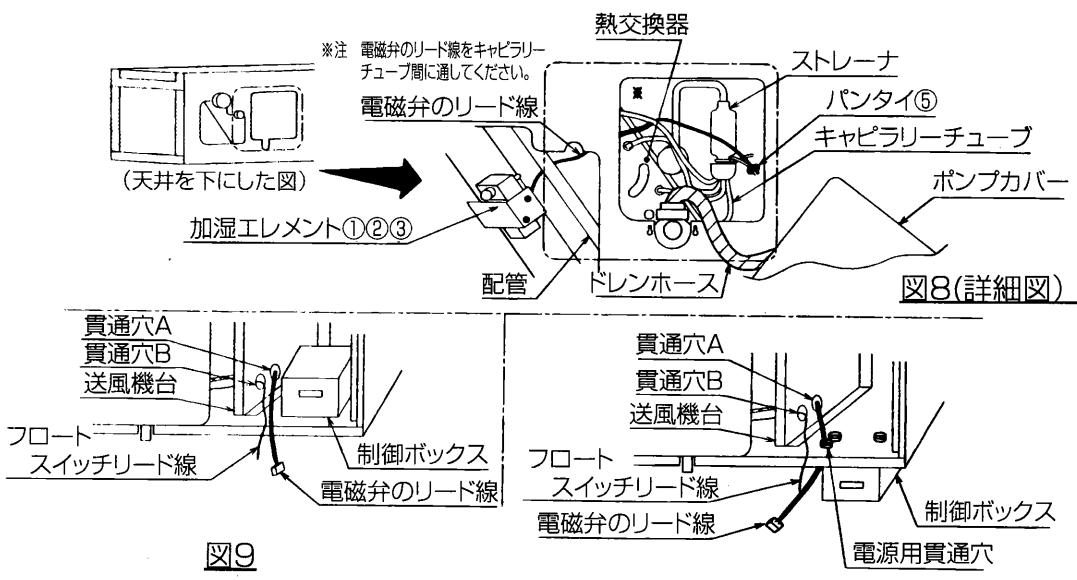


図8(詳細図)

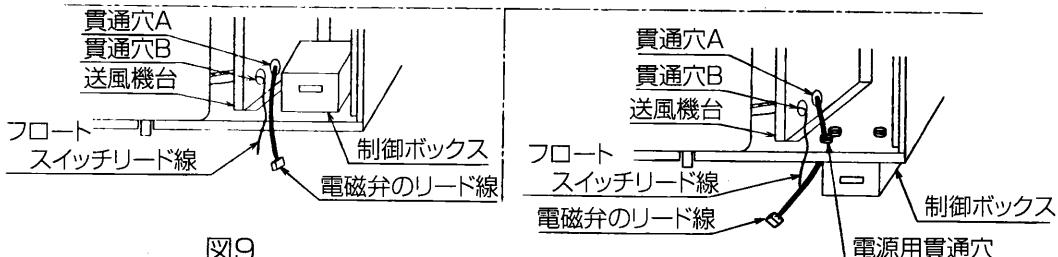
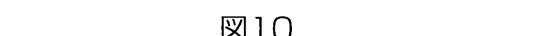


図9

図10



## 5 現地側の配管接続（バルブ組立の接続）

- ポンプカバーから出ている給水チューブの先端をバルブ組立④に取付けてください。
  - 図11のようにチューブスリーブを指定の位置まで差し込みダブルスパナで締め付けてください。尚、締付けトルクは4.0~5.0N·mで締め付けてください。
- 注) ・給水チューブに荷重がかからないように現地給水及びバルブは吊り金具を用いて保持してください。  
・バルブ組立は室内ユニット本体と同等以上の高さに設け、一時給水配管への逆流を防止できるようにしてください。

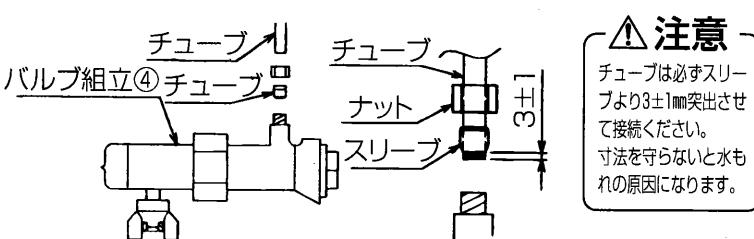


図11

チューブ締め付けの詳細図



# 電気配線要領

制御ボックスのカバーに貼付けています、操作説明書の機種名と定格名板の機種名が一致していることを確認してください。

1. ネジを緩め矢印の方向1,2の手順で制御ボックスを取外してください。(図12)

(制御ボックスサイドにあるコネクタの取外しは不用です)

2. 取外した状態で、制御ボックスの表と裏にあるカバー3つを取外してください。(図13)

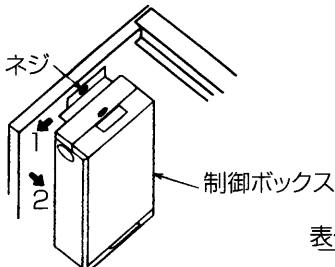


図12

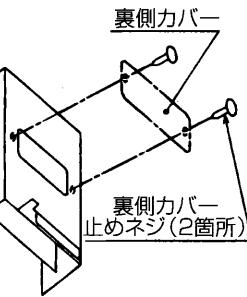
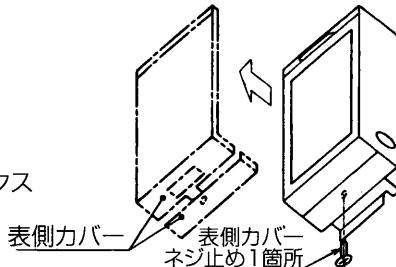


図13

機種により配線方法が異なりますのでご注意ください。

PDFY-J22~140M-Aの場合

PDH-J40~140FAの場合

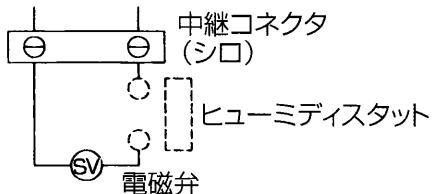
配線 方法 手順	3. 制御ボックス裏側より、図14を参考に加湿制御基板⑥を取付けてください。 4. 加湿制御基板上のCNXとインドア基板上のCN25の間をリード線組立A ⑨にて接続してください。(図14) 5. 加湿制御基板上のCNIとインドア基板上のFAN2の間をリード線組立B ⑩にて接続してください。(図14) 6. 制御ボックス側面にある加湿器コネクタ取出口より、電磁弁からのリード線を加湿制御基板上のCNOへ接続してください。(図14,図15) 7. 同じく、接続ボックス側面にある加湿器コネクタ取出口より、フロートスイッチ⑦からのコネクタを制御ボックス表にある赤色のコネクタへ接続してください。(図14,図15) 8. 電磁弁のリード線の接続及び、フロートスイッチ⑦からのリード線の接続が終わりましたらボックス側面のケーブルストラップにて線を束ねてください。(図15)		
	<b>制御ボックス背面図 図14 (PDFY-J22~140M-Aの場合)</b>	<b>制御ボックス側面図 図15</b>	<b>制御ボックス背面図 図16 (PDH-J40~140FAの場合)</b>
配線 図	<b>(PDFY-J・M-Aの場合)</b> <p>試運転確認後は必ず取外してください。</p>	<b>(PDH-J・FAの場合)</b> <p>試運転確認後は必ず取外してください。</p>	

9. 配線作業が終了しましたら元通り制御ボックスのカバーを取付けてください。

その後、加湿器取付要領①と逆の要領でフサギイタとフィルタを本体に取付けてください。

# ヒューミディスタッフの取付けについて

本加湿器は透湿膜式で自己制御特性があり、ヒューミディスタッフの取付けは基本的に不用です。現地システム上ヒューミディスタッフを設ける必要がある場合は給水電磁弁の200V回路に現地改造して接続してください。  
(ヒューミディスタッフの接点定格は0.1A以上のものを選定してください。)



## 現地側給水配管工事

給水には上水を使用してください。  
公共の水道管に直接接続する事はできませんので、高架受水槽からの給水としてください。

## 試運転要領

### 準備

バルブ組立④の栓を開いて加湿器への給水準備をしてください。

### 1. 室内機の電源端子台のみ電源印加可能な場合

室内機に関係なく給水電磁弁が動きます。動作確認後必ず加湿制御基板のCNTに差し込まれているコネクタ（赤色）を取り外してください。

### 2. 通常制御（リモコン）ができる場合

動作確認前に必ず加湿制御基板のCNTに差し込まれているコネクタ（赤色）を取り外してください。

リモコンをONにして、暖房モードとしてください。（霜取中、ホットアジャストを除き、給水電磁弁が動きます。）

※1又は、2項により試運転が完了後長期間使用しない場合は、バルブ組立を再び閉めて加湿器内のカビ発生防止のために強制乾燥をお願いします。（強制乾燥は送風運転で約20時間運転させるのが目安です。）

## メンテナンス

### ●加湿器の交換

加湿エレメントの寿命は一般の上水で5年です。加湿能力の低下や加湿エレメントからの水洩れが確認されたら交換してください。

### ●加湿器の乾燥についてのお願い

暖房シーズン終了後、そのまま放置しますと、場所によってはカビが発生することがあります。カビの発生を防止するため強制乾燥（試運転と同じ要領）を行なってください。



WT01956X03